

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画

不測の事態により長期化】

老朽化した聖石橋の架け替え工事に多額の費用が必要とされたため、これを最優先し事業を促進してきた結果、一般道路部の用地買収の本格着手が橋梁架け替え完了後の平成19年度となった。(H9～H18の10年間は450百万円/年を投入)

また、時間の経過とともに、用地単価は買収開始当初と比べ大きく下落したことも、用地交渉をする上での難航要因となっている。

H21末時点で残用地は9件であり、このうち2件が事業について理解を得られていない状態であるため、H22以降は土地収用法の手続きも念頭に交渉を継続する。



人家連担状況



6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

高崎市中心市街地の混雑を解消するための事業であり、現在88%まで事業が進捗している。懸案事項となっている2件の用地未買収箇所は土地収用法の適用を念頭に用地買収交渉を継続、早期の用地買収に努め、平成25年度の事業完了を図りたい。